

2004年(平成16年) 9月1日水曜日(毎月1日発行)

1部 50円(消費税込・送料別) 発行所/天台宗出版室 発行人/出版室長 工藤 秀和 〒520-0113 大津市坂本4-6-2 天台宗務庁内 電話 077-579-0022(代) Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報

〈一隅推進会員〉 年度会費(2500円)中に会報(天台ジャーナル)購読料を含む。

極微 ごくみ

今夏のアテネオリンピックでの日本選手の活躍は見事だった。だが、金メダルの最有力候補だった柔道の井上康生選手がなんと予選で敗退してしまった。敗戦後の痛々しい彼の姿はその映像を見る我々もつらかった。しかし、彼は日本選手

団の主将として最後まで一線に立って自分の役割を果たした。そして「これからも人生は続く」と彼は言った。栄光を手にした者と敗れ去った者との落差。オリンピックの魅力はこうしたドラマを我々にみせてくれるところにもある。

君たちといた夏を忘れない

第39回天台青少年比叡山の集い

天台青少年比叡山の集いが、今年も八月三日から五日まで開催された。今年度参加した青少年は、百七十三人で、彼らを指導する研修リーダーは六十六人。今年で三十九回目ということもあり、一度参加した子ども達が親となり、その子どもが参加したり、成長してリーダーとなって参加するケースも多い。毎年宿舎として利用する延暦寺会館が、改築中のために、今回は京都東山閣が利用され、その分移動等に神経を使ったが、例年にならない研修コースも組み入れられるなど、多角的な研修となった。

京都・妙法院 三十三間堂で止観 比叡山・横川 元三大師堂で食事



初めての研修日程で

世界平和祈りの集いでも 主要な役割担う青少年

初日の三日は、全国からの参加者を迎え、まず伝教大師の御廟である浄土院に参拝。結団式ののち、渡邊恵進天台座主陛下より授戒を受けた。

翌四日は、五時三十分起床、京都の三十三間堂に向かい、六時三十分から御本尊・千手観音像の前で止観の実習に臨んだ。従来、止観は、比叡山根本中堂で行われており、三十三間堂での実習は初めて。また、三十三間堂でも「おそろく、御本尊の前で止観を行ったのは、今回が初めてではないか」という。

同日は、横川の元三大師堂で夕食となった。青少年達が、元三大師堂で食事をするのも、今回初めてであったが、大人数のために灌室まで提供されての食事という、異例づくめの対応に関係者は感激を新たにしていた。

夜は最大のイベントであるキャンプファイアー。折からの台風十一号の影響で、夕方より激しくなった風雨に、リーダー達は天を仰ぎ祈った。荒天で開催が危ぶまれたが、ときおり強く雨が降る中、天台宗の秦社会部長も参加して決行された。

比叡山の駐車場に設けられた火壇を子ども達が取り囲む。リーダー代表が点火すると、一度火は空中に舞い上がり、火花が仕込まれた火壇が勢いよく燃え上がるという凝った演出に、参加者の興奮は最高潮に達した。各班のリーダー達が趣向を凝らした衣装や踊り、バンド演奏で雰囲気盛り上げ、最初は遠慮がちだった青少年達も、全員が一体となって最後の夜を楽しんだ。雨の中を歓声がこだまし、手をとりあって涙にむせぶ子ども達とリーダー達。秦社会部長は「比叡山青少年の集いに参加した子ども達は、もともと道心が備わっている。実に素直で、接している

も気持ちがいい」と評した。最終日には、これも初めての京都清水寺で班別自由行動が行われた。少額のお小遣いを持参することも認められ、修学旅行気分でお土産を買う子ども達。初日には、うつむきがちでおどおどしており、般若心経も遠慮がちに唱えていた青少年たちも、修了式では、規律に慣れて堂々としており、新しい友達と名残を惜しむ姿が見られた。あるリーダーは「子ども達の成長する姿がはつきり見られた」と語り、「次は、リーダーで帰って来いよ」と呼びかけた。リーダー達は、天台宗寺院の師弟や寺族が多いが、一方で檀信徒の子弟もあり、次代の交流という役割も果たしている。

雨の中 歓声がこだま

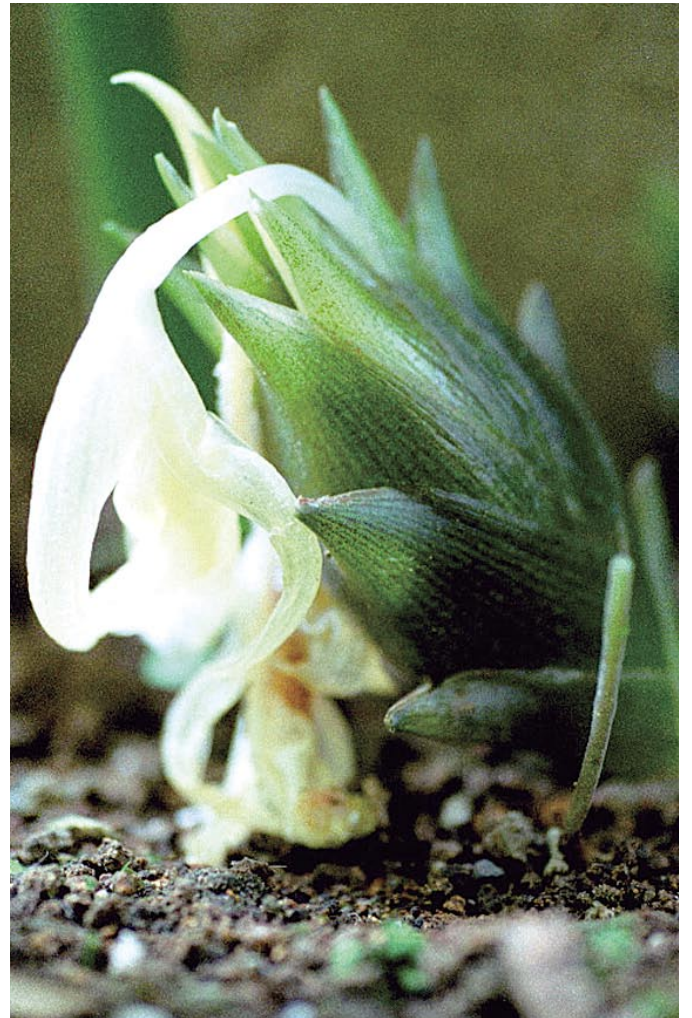
と、一度火は空中に舞い上がり、火花が仕込まれた火壇が勢いよく燃え上がるという凝った演出に、参加者の興奮は最高潮に達した。各班のリーダー達が趣向を凝らした衣装や踊り、バンド演奏で雰囲気を盛り上げ、最初は遠慮がちだった青少年達も、全員が一体となって最後の夜を楽しんだ。雨の中を歓声がこだまし、手をとりあって涙にむせぶ子ども達とリーダー達。秦社会部長は「比叡山青少年の集いに参加した子ども達は、もともと道心が備わっている。実に素直で、接している

と、一度火は空中に舞い上がり、火花が仕込まれた火壇が勢いよく燃え上がるという凝った演出に、参加者の興奮は最高潮に達した。各班のリーダー達が趣向を凝らした衣装や踊り、バンド演奏で雰囲気を盛り上げ、最初は遠慮がちだった青少年達も、全員が一体となって最後の夜を楽しんだ。雨の中を歓声がこだまし、手をとりあって涙にむせぶ子ども達とリーダー達。秦社会部長は「比叡山青少年の集いに参加した子ども達は、もともと道心が備わっている。実に素直で、接している

と、一度火は空中に舞い上がり、火花が仕込まれた火壇が勢いよく燃え上がるという凝った演出に、参加者の興奮は最高潮に達した。各班のリーダー達が趣向を凝らした衣装や踊り、バンド演奏で雰囲気を盛り上げ、最初は遠慮がちだった青少年達も、全員が一体となって最後の夜を楽しんだ。雨の中を歓声がこだまし、手をとりあって涙にむせぶ子ども達とリーダー達。秦社会部長は「比叡山青少年の集いに参加した子ども達は、もともと道心が備わっている。実に素直で、接している

サミットの主要な役割を担う





花想 風言

秋ミヨウガが土の中から小さな手のひらのような茎を出している。茎のてっぺんに淡いクリーム色の花が見える。幼いころにはミヨウガの味や香りは大人が珍重するほどのものではないと思っていた。山の小僧暮らしで、裏の竹やぶにどっさり茂るミヨウガの花を摘み、梅酢に一夜漬けをして不意の来客のおしのにそなえたりした。俗に「食べ過ぎると物忘れする」といわれるのは、仏伝の挿話にある仏弟子周利槃特(チュウライパンダカ)の故事による。彼は自分の名前も覚えられないほど物忘れがひどく、師である

第6回 茗荷 福田徳衍(文・写真)

お釈迦さまに書いてもらった名札を背負って、掃除のみに精進し、ついには、阿羅漢の境地に達した。彼の死後、その墓から生えたのがミヨウガで、食べすぎると槃特さんのようになる、といわれたものだった。シヨウガ科の多年草、中国やインドにもあるが、食用にしているのは日本だけらしい。インド人の友がやって来たので、冷や奴に刻んでのせたら、匂いをかいで顔をしかめ、ミヨウガだけを器用に箸でつまんでよけられた。

◆プロフィール
一九三六年東京生まれ。十二歳から二十一歳まで比叡山で小僧生活をして過ごした。元朝日新聞社記者。信越教区新潟部・徳法院住職。俗名福田徳郎。



『長男の励ます声』

真島さんも、寺で育った娘であるから、常にご詠歌は近くにあった。「亡くなった母から『あなたも、ご詠歌をやりなさいよ』と娘の頃から勧められてはいたのですが、仕事もあつてそのままになつていました」という。

長男の一周忌が済む頃、決心して、実母が大切にしていたご詠歌の本、所作の道具一式と、形見の着物を譲り受け、打ち込むことにした。しかし、もちろん、すぐに悲しみが消えたわけではない。「三年ぐらいいは、やはり思い出したら泣いていました」。しかし、十人の会員と共に月二回の練習を重ねるうちに、しだいに心は落ち着いてきた。

平成十四年には「日中友好交流」の一環としての大興善寺訪中参拝団に参加、本年六月にはハワイ別院などにも参拝し、奉詠舞を通じて現地日系の人々と交流を深めるまでになった。ハワイへは、長男が亡くなる前に「家族全員で行きたい」と話し合つて貯金をしていたあこがれの地でもあった。

「亡き子への供養のつもりで始めましたが、今では逆に長男から『お母さん頑張つて』と励まされているような気がするのです。いつまでも悲しんでいては、息子にもすまない」。悲しみを乗り越えると「花散る浄土に迎えられ 日夜に弥陀の法をきく 蓮のうてなしろきはな 尽きせぬ香華のかしこさよ」(弔いのご和讃)という世界に、亡くなった子どもはいると確信できるようにもなつた。

「ご詠歌には検定もあるし、頑張りなくてはなりません。今年十月に鳥取県で開かれる西日本奉詠舞大会めざして一心不乱に励んでいます」と真島さんは笑顔で話す。

鬼手仏心

皆が手に

天台宗出版室長 工藤 秀和

大津の東南寺で行われた戸津説法に随喜した。

宗祖大師が父母の供養のために妙法蓮華経(法華経)を説かれた故事にちなみ、毎年行われている説法で、説法師は、将来の天台座主候補となるだけに、比叡山と天台宗では大変重要な意義を持つている。東南寺は、昔ながらのお寺で、冷房もなにもないので、お堂に立てられる氷柱に、わずかな涼を求めながら聞く。

法華経は、空から花降り、地は振動し、仏の光は世界を照らすところから始まる。壮大なお経で、一種のスペースオペラといつてよい。

全二十八品は、どれも素晴

らしい真理の教えばかりで「法華経一部二十八品のどこを読んでも、また僅かの時間でも法華経を聞いた人で仏に成れぬ人は一人もない」といわれる。現代の世相を考えながら、私は第七品の「化城喻品」のことを思った。

また、私たちが、回向のとき唱える「願わくば、この功德がたまねく一切に行き渡り、われわれと生ある者たちとが皆共に、仏道を成就できますように」という「普回向」もこの品にある。自分だけが救われるのではなく、自分が受けるべき良い結果を皆に振り向けて、皆が共に救われなくてはならないという教えなのである。

隊員たちは喜んで、幻の城で休息するので、リーダーは「さあ、行こ

う。本当の城と宝のあるところはまだ近い。前進しよう」と告げるのである。これは、現世利益にとらわれている仮の信仰を、本当の信仰に高めようとする仏の慈悲を示している。

縁信力見つけ!

御詠歌に救われ

事故で、長男を亡くしたが、ご詠歌のお陰で立ち直った女性がいる。九州西教区・安禅寺支部の真島壽子さん(六十七歳)である。

真島さんが、長男をスノーボードの事故で失ったのは今から五年前の平成十一年。当時長男は公務員で、三人の子どもの父親だった。学生時代には、バレーボールの全国大会に出場したほどのスポーツマンでもあり、真島さんには自慢の息子だった。「これから、帰るよ」と電話で話したが、最後の会話になった。小城で練習中の彼は、誤って障害



真島英治さん(写真左)。松本達淳安禅寺住職(同中央)。真島壽子さん(同右)

物に激突し、帰らぬ人となった。「どんな、慰めも聞きたくなかった。ただもう泣くばかりで」という真島さん。

そんな真島さんに「ご詠歌と詠舞を習ってみたら」と勧めたのは、安禅寺の松本達淳住職である。実は、松本住職は真島さんの実弟。「地元背振村の公立幼稚園の園長まで務めた姉が、病人のようになってゆく姿を見ていられたかった」という。防衛庁職員だった夫・英治さんも賛成した。

談話室

仏教の散歩道



ひろ さちや

作家。様々な問題から支那の宗教的視点から幅を広げ、8巻の『ひろさちや』を著し、『新潮』に連載中。

「ぼくはストレスを受けやすい人間です。以前に、ストレスによって心の病気になることもあります。最近、近所のマンションの建設の騒音によるストレスや、他人のことがひどく気になったりして、またストレスによる心の病気になるのではなにかと、不安でいっぱいなんです。どうすればストレスを感じないですむ強い心が持てるのでしょうか？その方法を教えて下さい」

「ぼくは以前にもまじ

真珠の涙を流す



(カット・伊藤 梓)



Information

第18回 世界宗教者平和の祈りの集い

9月 4日～11日 イタリア・ミラノ
7日 世界宗教者平和会議
世界宗教者平和の祈りの集い
平和行進

平成16年度大正大学天台宗法儀研究夏期研修会

9月 1日～ 7日 比叡山居士林



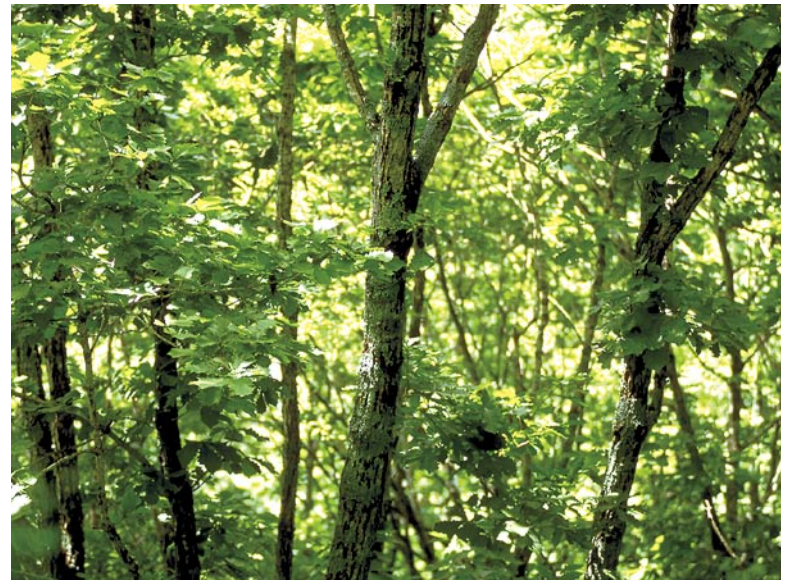
檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆さまにも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版部では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版部にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2
天台宗務庁 総務部 出版室
☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814



当世お墓考

死んだら樹になりたい？

お墓を巡って、各宗教、宗派で、当世風の新しい形式が試みられている。血縁ではなく、個人の契約による廟のような形、あるいは、里山全体を墓地として、墓石の代わりに樹木を植える樹木葬などである。

樹木葬は、生前に契約し、亡くなれば、墓石の代わりにウメモドキなど、約二十種類の木のうちから希望のものを植えてくれるという。場所は、日当たりの良いところから、売れてゆく。休日になれば、遺族が弁当持参で訪れ「これは、お父ちゃんの木よ」と偲んでいる。一代限り。枯れてしまえば、文字通り自然に返る。マスコミでも紹介され、関心も高いというが「流行に左右されて、それでよいのか。

「家の問題、親子の問題、家族関係を崩壊させる手助けを寺院がするのではないか」という疑問もあった。その一方で、利用する側からは「家族がいても、仕事で忙しく、わざわざ墓参りに遠くからきてもらうのも申し訳ない。それなら縛らず、縛られずに一代限りで」という遠慮があるという。問題の裏には、核家族、少子化に加えて「家族団らんや親孝行より、好むと好まざるにかかわらず仕事優先」という現代日本の構図が、透けて見える。

(写真はイメージです)

消防用設備 (工事及び保守点検) 設計、施工

株式会社 しばでん

〒601-8005 京都市南区東九条西岩本町39

電話 075-661-1117
FAX 075-681-4655
休日・夜間 075-931-5516

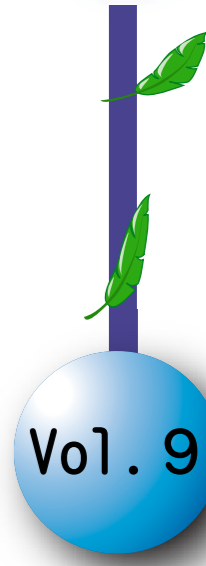


A Story in the Tendai

サイパン島へ26年 慰霊と交流の旅

比叡山麓・三宝廷住職 栢木 寛照 師

仏と生きる



比叡山麓三宝廷住職・栢木寛照は、毀譽褒貶の激しい人だ。それは、在俗から僧になったことに加えて、テレビ出演など世間への露出度が高いからだ。『タレント坊主』などと揶揄されたこともある。しかし、そうして稼いだ費用で、毎年、数十人もの青少年を、いまだに戦争の傷跡が残るサイパン島へ連れてゆき、平和の尊さを教えてきた。また、現地で世話になったお礼も込めて、冬にはサイパン島から日本に青少年を受け入れてきた。一人の予算は二十万円。二十六年間、のべ千百人の青少年をサイパン島へ派遣し、現地から六百人を受け入れてきたのは、やはり偉業ではないか。

私費で青少年を千百人

サイパン島は、日本の南二千三百キロの太平洋に浮かぶ小島である。栢木が日本の青少年を派遣することになるきっかけは、サイパンの初代知事候補だったカマチョ氏(のちに知事)と知り合い、受け入れの母体が整ったことから始まる。では、どうして青少年を外国に派遣しようと思ったのか。「自分には、膨大な法華経をすべて習得するのは無理だ。しかし、法華経を集約された伝教大師の教えがある。山家学生式や遺戒の中で、一貫して主張されている人材育成に力を注ごうと決意した。大師は『わたしは生れてより、誰に向かっても荒い言葉を使ったことはないし、答を手に罰を加えたこともない。法を継承する大切な道である童子を温かく育てて欲しい』と遺戒で述べられている。もうひとつは、平和を守ることである。戦争は、再び繰り返してはならない。そのため、戦争を語り継いで忘れないことだ。また、戦後、日本は資源がないので技術力で世界に対抗してきた。国際社会の支持をもらわなくては立ちゆかない国である。その意味で、国際的な視線を、小中学生に体験で教えたいと思った」。

◎散華舞う海◎

今年、七月二十八日から八月三日までの派遣に、九州、滋賀、和歌山、長野、兵庫等から二十一人が参加した。世話役のボランティアを加えると約三十人。今年、ちよっとお金が多かったから。二十八日夜八時三十五分に日本を発つて、現地着は深夜一時である。キャンプ地のホップウッド・ジュニア・ハイスクールに向かう。中学校の教室を宿舎として提供してもらっているのだ。サイパン市役所からも世話係が二人付いてくれる。湿度と温度は日本より高いし、夜中といえどもあまり下がらない。深夜三時近くになって、就寝となった。なかなかのハードさである。「サイパンに連れて行くと、彼らとつき合いが続くとか、信者になれとか、そんなケチなことやない。見返りなんかなくていい。彼らは、この体験を生徒忘れない。それでいい。私の照準は未来に合せている。今すぐ、なんらかの結果が出るなんてことはハナから考えてない」。

久遠の光に帰ってゆくいのち

翌日から、公式日程がスタートする。知事を表敬訪問したのち、一行はバスで、パンザイクリフ(岬)へ向かう。サイパンの最北端にある岬で、太平洋戦争中、アメリカ軍に追い詰められた日本軍の兵士や一般市民たち、子どもを抱いた母親までもが「パンザイクリフ」と叫びながら身を投げた。参加者は、毎年新聞紙上で公募され、例年だと五十人前後が採用される。

「お釈迦さまの教えの目的は、いま生きていくわれわれに、どのような心がまえ、どのような考え方が正しいのかというのを示唆し、人格を形成することにあると思う。そして、大事なのは、日本を支える人の底辺を厚くすることだ。そうすれば、社会に余裕ができる。平和と豊かな社会を維持できるのは、余裕があればこそだ」と栢木は主張する。

◎一切我今皆懺悔◎

参加した子どもたちから「疲れた」という声があった。それを聞いた栢木が怒った。「情けないこと言うな!暑いのは日本も同じ。知らない国に行き、知らない人と交流することが、君たちの将来に絶対必要や。水もある、食事もある、連れてきて世話してくれる人もある。若い頃に疲れたとは何事や。この平和も湧いて出たわけやない。戦争で犠牲になった英霊がいます。三十五歳を超える猛暑だが、小・中学生の子どもたちも真剣で、不満を言うものはない。法要後、栢木は、ひとり切り立った断崖に立って、散華を海に撒いた。天上の花を形取った紙華は、空中高く舞い上がり、世界一深いマリアナ海峡の風でまた地上へ押し戻され、キラキラと輝きながら、再び海へ吸い込まれてゆく。厳粛な美しさである。海は、どこまでも群青で澄み、吸い込まれるような魅力に満ちているのだが、同時に声なき声を呑み込んでいるようにもあり、不気味な美しさといつてよい。

◎残骸と弾痕◎

続いて、シーサイドクリフに向かう。山伝いに逃げて来た人々が、次々と飛び降り無念の最期を遂げた場所だ。小・中・高校生たちの唱える般若心経にあわせ、ただ、頭を下げて祈りを捧げるのみだ。そして、中部陸軍司令部跡がさび付いた姿をみせ、砲撃の弾痕がいたるところに残る。当時米軍は、上陸前に三千トンの砲撃を行ない、次々と上陸を開始した。日本軍は火砲二百一門で対抗する。対する米軍は二千四百一門である。話にならない。七月七日、サイパン島は玉砕する。これで米軍は、B29による日本本土攻撃が可能になった。サイパン島では、戦死者約三万人、市民の死亡一万人、捕虜九百人といわれる。この数を、現地の人々は信じていない。六万人から七万人が亡くなったという話を取材中に何度も聞いた。観光客らしい母親が幼い娘に「ここは、日本の兵隊さんが玉砕したところよ」と説明していた。娘が聞いた。「ゴキョクサイって、なに?」。玉砕とは「何もしないで安全より、名誉を重んじ、玉のように砕けよ」という「瓦全より玉砕」から来ている。こんなテイのよい言葉に振り



パンザイクリフにある供養塔の前で、慰霊法要を行う一行



子どもたちばかりではなく、地元の人々もひとつづつ持って手作りの灯籠を海に流す。

「お釈迦さまの教えの目的は、いま生きていくわれわれに、どのような心がまえ、どのような考え方が正しいのかというのを示唆し、人格を形成することにあると思う。そして、大事なのは、日本を支える人の底辺を厚くすることだ。そうすれば、社会に余裕ができる。平和と豊かな社会を維持できるのは、余裕があればこそだ」と栢木は主張する。

五十一年が過ぎて、今や忘れ去られようとしている人たちが……。サイパン市役所の担当者は、言った。「一時、遺骨収集のツアーがブームだった。慰霊法要もそうだった。でも、ブームが去ったら、もう、日本からあまりこないね……。台風のせいだろうか、昨日まで美しかった海は荒れ、しだいにうねりをましてゆく。手を合わせて懺悔文を唱えた。「我昔所造諸悪業……一切我今皆懺悔」。外が、ゆつくりと明るくなってゆく。今日から、子どもたちは、現地家庭にホームステイに行くのだ。「サイパンの体験を子どもたちは生涯忘れない」。栢木寛照の言葉である。(文中敬称略 文・天台宗出版室編集長 横山 和人)

お便りを下さい

あなたの周りでの出来事、ご感想をお送り下さい。また、取材について「こんな出来事、あんな人々」をお知らせ下さい。封書、FAX、Eメールで、天台宗出版室まで。連絡先は、題字横です。FAXは、077-578-4814

比叡山宗教サミット17周年

～世界平和祈りの集い～



戦闘とテロ即時停止を訴える場に

去る八月四日、比叡山延暦寺において比叡山宗教サミット十七周年「世界平和祈りの集い」が開催された。

今回の祈りの集いは特に、戦闘とテロの即時停止、武力行使に傾く政治指導者、宗教指導者にねばり強い平和交渉を強く求めるものとなった。

同日の集いには、仏教、神道、キリスト教、イスラム教、新宗教などの各代表者、そして全国から集まった五百名近い宗教者など参加者は約七百名にのぼった。世界の国々には何

の序列も、区別もないことを現すために、青少年達が自由に国旗を並べ替えるというセレモニーがあった後、渡邊恵進天台座主が武力行使の即時停止を「平和祈願文」の中で訴えた。続いて平和の鐘が打ち鳴らされる中、参加者全員で平和への祈りを捧げた。また、「平和を語る」と題して法相宗管長で薬師寺管主の安田暎胤師が平和の大切さを訴え(別掲)、さらに世界各国の宗教指導者からの平和メッセージが披露されるなど、一刻も早い平和到来を願う宗教者の真摯な祈りの場となった。

安田暎胤・薬師寺管主 平和を語る 要旨抜粋

人類における平和な世界とは、世界中の人々が互いに助け合い、武力を持って争わず、物心両面が豊かで不平等や不満を抱かず、生き甲斐をもった生活がなされている社会ではないかと思えます。ところがそうした社会は、人類史上で実現されていないのです。人の中には「所詮、人間は不完全なもの、平和を実現しようと願うのは空想論である」と冷笑される方もあります。たとえそれが空想論と揶揄されようとも、宗教者は平和実現や理想の追求を諦めてはなりません。混沌とする世に、人々の行くべき方向を示すことが宗教者の役割だと思いま



「平和を語る」と題し講演する安田管主

しかしその宗教が、戦争や世の混乱の火種になっているように誤解されているところもあります。宗教は信仰によつて強い信念が養われますが、ともすれば排他的になる面もあります。もし宗教の名において戦争が行われているとするならば、それは正しい

信仰がなされていない証拠です。争いの原因を避け、平和を目指していることは皆同じで

す。ただそうすることが良いとは分かつてはいても、現実には自己中心的なエゴの欲望が働いてしまうのです。誰もが持つていようエゴの心を、如何に浄化し慈愛の心に転換するかが宗教の果たす役割だと思えます。信ずる神や仏の名前は違っても、教えの内容は共通点が多いのです。それは人間の心の働きが同じだからです。千年以上も継承され、人種や国を越えて伝わった宗教には、時間と空間を越えた永遠性と普遍性があります。それぞれが真理を語り、人の心に感動や癒しを与えてきたものです。宗教者は、各々の宗教に基づき正しい信仰に裏付けられた人間として、社会に貢献しなければならぬと思えます。世界の平和に向けての宗教者間の対話が必要だと思えます。お互いが他の宗教を理解すれば、対立がなくなり友情が生まれます。

雅楽を通して仏教を知る

別冊太陽 三千院の御懺法講も紹介

笙、篳篥、という「雅楽」で使われる楽器は、宮内庁楽部出身のアーティスト、東儀秀樹氏の作品が幅広く一般に受け入れられたことにより、最近若い人達にも知られるようになった。しかし雅楽そのものは余り理解されていないのが現状である。

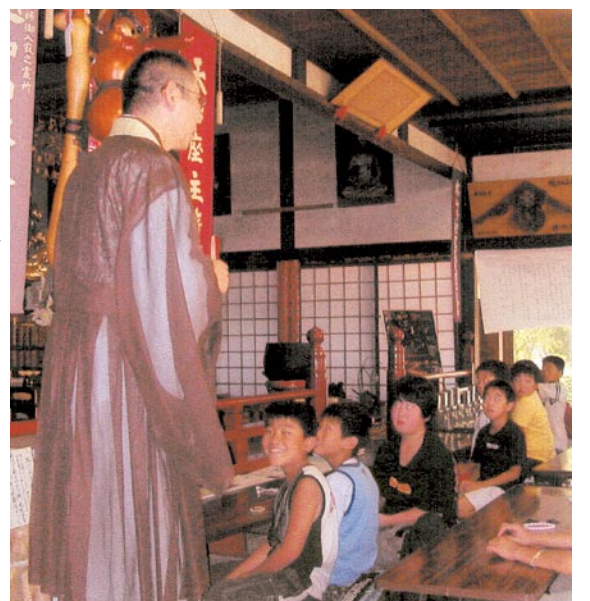
雅楽は、古代中国に源を発した音楽・舞踊がもとになつていて、大陸の様々な地域の歌舞を吸収しながら、本宗関係では雅楽



と声明の絶妙なコラボレーションで知られている京都・三千院の「御懺法講」についても詳しく述べられており、興味深い。別冊太陽「雅楽」平凡社刊・二五〇〇円(税別)。

～夏休みの思い出に～

北陸仏青・青少年一日研修を実施



北陸教区仏教青年会(光照良浩会長)では、去る七月二十四日、福井県丹生郡朝日町の大谷寺(西山良忍住職)において、「青少年一日修行会」を実施した。夏休みに入つて間もないこともあって、今回は募集定員二十名のところ予想を上回る小学生二十五名が参加。午前十時からの開会式に始まり、般若心経の習礼、「山家学生式」の写経、止観、清

掃などのスケジュールの他、近くの植物園で「草木染め」の体験を加えるなど、厳しさの中にも楽しさを配慮した内容で、参加した小学生にも良い思い出になったようだ。いずれの研修も講師は仏青会員が担当。

北陸教区仏青では、「物で榮えて心で滅ぶ」と危惧されている現代社会です。そこで生活する子どもたちに、お釈迦様の素晴らしい教えに触れてもらい、すこしでも自分の生活を省みる機会の一助となれば」との思いでこの修行会を開催したと語っている。(報告・中野純賢師)

祝 新任職任命

- 【栃木・正光寺】池田宗道師
- 【埼玉・長覺寺】鎌田亮宣師
- 【南総・長榮寺】石井堯俊師 (平成十六年七月二十三日)
- 八月二十日 法人部調べ

【訂正】第17号6面「スーダンへの緊急支援」記事で、国連難民高等弁務官駐日代表の氏名を「ピルコ・コウラ代表」とお伝えしましたが、正しくは「ピルコ・コウラ代表」の誤りでした。訂正し、お詫び致します。

第2期 續天台宗全書 全十巻 予約購入募集中! 天台宗特価

入手困難な佛典の画期的翻刻印刷 天台宗典編纂所編 春秋社刊行 第1回配本 宗要光聚坊 上

天台宗典編纂所 FAX 077-579-6639

ぜひ寺院に1セットお備え下さい

◎前半一括前払い 100,000円 (5巻代金・消費税・送料込)

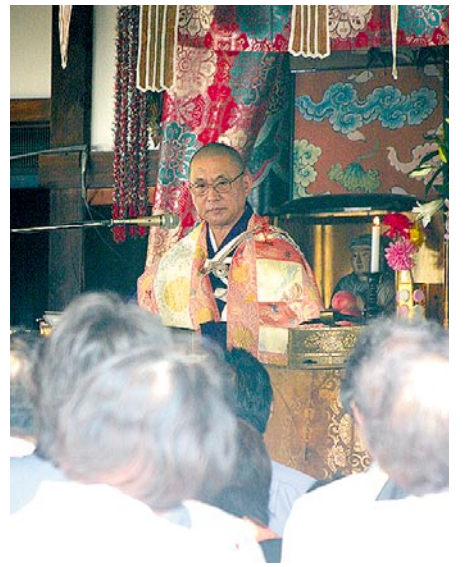
◎各巻前払い 21,630円 (1冊代金・消費税・送料込)

ご購入には上のどちらかをお選び下さい。

お問い合わせ 天台宗典編纂所 電話 077-578-5190

第1期全15巻は完結終了しました。有り難うございました。

今年の東南寺説法 山田能裕師が厳修



八月二十一日から二十五日までの五日間にわたり、大津市下阪本の東南寺で戸津説法が行われた。

本年の説法師である、延暦寺長藤・瑞応院住職の山田能裕師(73)は「聴衆の中には多くのお年寄りがおられる。今日の法華経の話を家族やお孫さんに伝えてもらいたい。そのことで家族の絆が深まれ

ば」と、ユーモアを交えた身近な話題で説法。聴衆はメモをとるなど、熱心に聞き入っていた(写真)。

この戸津説法を勤仕した僧侶には探題職への第一歩となる望擬講職に任命されることから、天台座主に至るための登竜門といわれている。親子二代の戸津説法厳修は今回がはじめて。

日中関係の課題

オリンピックは平和の祭典というが、一方スポーツは戦争だ、というひともいる。確かに国家を代表した選手がメダルを争い、金メダルには国旗が掲揚され国家が吹奏されて、栄誉が讃

められるのだから、国威発揚の場となる。また自国の代表選手が死力を尽くして闘い、国民が熱狂して一丸となつて応援する姿は、微笑ましいものの、いささか常識を逸脱しているきらいもないではない。

そこで思い出すのは、中国でのアジアカップのサッカー試合のことだ。日本選手に対する中国人観客のブーイングが激しく、日本の国旗が焼かれただけでなく、日本大使館の公用車が、ガラスを割られるなどひどい破損を受けた。

政府の管制下にある中国メディアは、この事件を報道しないどころか、日本をはじめ国際的批判を無視している。ここに反日教育が

コンパス

元天台宗宗務総長
杉谷義純



アテネオリピックの日本人選手の活躍はめざましかった。いつもは前評判だけは高く大騒ぎして、結果は予選落ちというパターン

で行き過ぎたことに困惑しつつも、国民感情を抑えることのできない、中国政府のジレンマがある。中国には自国を文化国家とし、周辺

の民族を夷狄(野蛮人)と呼んで蔑視してきた長い伝統(中華思想)がある。日本も夷狄の一つ(東夷)で、その野蛮国に国土を蹂躪されたと思えば、その傷

は途轍もなく深い。さらにその国が世界第二の経済大国になっていくことなど、そう簡単に許せないのだ。だから中国は今や経済発展を遂げ、日本を追い抜いて

世界第二の石油消費国となり、高揚するナショナリズムのエネルギーが、一挙に反日へ向けられてきたといえる。買春や珍妙な寸劇など、もつての外なのである。

『君も一休さんになろう』 第26回青少年研修会を開催

山陰教区

「君も一休さんになろう」よう。天台宗山陰教区は、こんなキャッチフレーズのもとに、この夏の青少年研修会を開催した。



今年で二十六回を迎えるこの青少年研修会は、八月二十二、二十三の両日、三徳山三佛寺及び、輪光院・正善院・皆成院を会場に開かれ、小学生五十八名が参加した。



ハワイで会った 聖人。奇人たち(後)

荒了寛
天台宗ハワイ別院

「先生は、更に「わしの友達で宝石屋をやっている白人がセンターシティの金山跡にいるから、明日行ってみましょう」と言ってくれたので

センターシティはデンバーの西北、車で二時間ほどのコロラドの山の中にあつて、西部劇に出てくるような風景でした。

友人の店に入ると、北欧のおとぎ話に出てくるような赤ら顔の老人が出てきました。老人は二、三個宝石を取り出し、「このサファイアはどうですか。二百ドルだが、半額に負けてあげましょう」と

デスクから

サイパンから帰る。仕事の都合で同行取材したのは、二日半だったが、ほとんど密着して動き回る。色々と興味深い話は聞いたが、結局、仕入れたネタの半分以上は紙面の関係で捨てるを得ない。しかし、これがあるべき姿だ。いつも、一を聞いて、十を書く姿勢を反省する。『世界平和の祈りの集い』と同じ日の夜は、青少年の取材へ。キャンプファイヤーは雨だったが、若い人々は楽しそうに元気が出る。だが、カメラを向けると皆が必ずVサインをするのは、日本の若者の特徴か? ●北陸の中野純賢師、山陰の米田良中師長さん、記事ありがとうございます。感謝しています。

示寂

- 寺田 良道師 平成16年7月20日遷化
- 神奈川教区増福寺前住職
- 8月2日日本葬儀執行
- 田中 圓雄師 平成16年8月2日
- 東京教区本覺寺名誉住職

- 8月11日本葬執行
- 佐藤 俊董師 平成16年8月15日遷化
- 福島教区岩角寺名誉住職
- 9月25日本葬儀執行予定
- 中里 昌念師 平成16年8月18日
- 栃木教区日増院住職
- 8月24日本葬儀執行

ういうみやげ物を買って寺の経営の足しにしなさい」と言うことだったかと思えますが...。あるいはT先生も多分、私のように本当のダイヤなど見たこともなく、あれが本物のダイヤだと信じて私にくれたのかもしれない。さらに言えば、「経寸十枚国宝にあらず」、こんなものをあてにしてはいかんよ、と私を諭していたのかも知れません。しかし、あの時頂いた「忍終不悔」という言葉は、私のその後の開教生活三十年を支える言葉となりました。

(終)

全世界の友だちのために

天台青少年
比叡山の集い

研修生が募金を寄託

八月四日、延暦寺根本中堂で、地球救援募金寄託式が行



八月に行われていた「天台青少年比叡山の集い」に参加した中学生が、この日のためにお小遣いの中から出し合った募金と、全国から寄せられた浄財を合わせたもので、今回総額は三百万円にのぼる。寄託式では、参加者を代表して北川泉水さん

が、「毎日のように戦争の悲惨な映像が目に見え、悲しいことばかりです。これほど悲しいことはありません。私たちが平和への願いを込めて持ち寄った募金を、全世界の友だちの笑顔のために寄託します」と記された目録を読み上げ、小堀光詮一隅を照らす運動会長へ手

渡し、引き続き、小堀会長から大野幸男日本ユニセフ協会協力事業部長に贈られた(写真)。一隅を照らす運動総本部地球救援募金事務局では、活動の一環として「ユニセフ・国連児童基金」へ十三年前から支援を続けている。

東北・上越・北陸に加え四国にも 水害被災地への義援金協力を —天台宗災害対策本部—



河川の氾濫により、大量の汚泥が流れ込んだ学校の校庭に消毒剤を撒く学校関係者 (写真=福井県・北陸教区撮影)

東北・上越・北陸を襲った集中豪雨から約二カ月が経過したが、四国地方では、七月末から八月にかけて、台風による集中豪雨で甚大な被害を受ける事態となった。

一隅を照らす運動総本部では、七月二十三日に東北・上越・北陸地方の被災地に支援金を送金しており、その後天台宗各所管部が合同して災害対策本部を設置、被

実践3つの柱

- 「共生」…地球に優しい生活をしよう
- 「奉仕」…ありがたい心で行動しよう
- 「生命」…あらゆる命に感謝しよう

スーダン難民支援へ UNHCRに募金

一隅を照らす運動総本部地球救援募金事務局では、スーダン難民支援として五十万円を、WCRP(世界宗教者平和会議)日本委員会を通じて、国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日地域事務所へ寄託した。先月、天台宗を来訪した、駐日地域代表ピルコ・コウルラ代表の要請に応えたもの。アフリカ東部のスーダン西



©ロイター・サン

素晴らしき 言葉たち

光は声を持たないから
光は声で人を呼ばない
光は光で人を招く

詩集『樹木派』より
高見 順

太古の昔から、私たち人類は本能的に光を求めてきました。闇は禍々しく、光は希望でした。

光とは、仏教では、仏の智慧であり、慈悲を現します。戸惑う人々に、み仏は一条の光を投げかけ、歩むべき道を示してくれます。

この、み仏の投げかける光に感応することができるとは、私たちが、生まれながらに光を内に持っているからです。

法華経では、このことを、悉有仏性(存在するも

自然とともに

—立松和平日を講師に迎えて—



一隅を照らす運動 環境問題公開講座

- 日時** 10月2日(土)午後2時開演
- 会場** 天台宗務庁大会議室
- 定員** 300名
- 参加費** 無料(要予約)*定員になり次第〆切
- 申込方法** ハガキ・FAX・E-mailにてお申し込み下さい。
- 問い合わせ** 〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 一隅を照らす運動総本部
TEL 077-579-0022 / FAX 077-579-2516
E-mail: ichigu@tendai.or.jp

一隅を照らす運動総本部・地球救援募金事務局では、発展途上国の現況やこれまでの海外支援の成果、また関係団体が実施するプロジェクトを視察するため、タイ・ラオスへ「交流親善視察団」を派遣致します。

今回視察するタイ最大のクロントイスラムは、家屋が密集し、鼻を突く悪臭、子どもにまで及ぶ麻薬や売春、幼児

タイ交流親善視察団を派遣 ニューライフプロジェクト・学校建設状況など

参加者募集



虐待といった問題が山積しています。またスアンブルームでは今年四月に大規模な火災が発生し、継続的な支援が必要です。更に、ドゥアン・プラティープ財団が実施する、青少年更生のための「ニューライフプロジェクト」施設や、ラオスでは建設された学校の状況も視察します。日程は十二月五日から十日(五泊六日)を予定しております。詳細のお問い合わせは、一隅を照らす運動総本部地球救援募金事務局☎〇七七―五七九―〇〇二二まで。